

「台湾大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学文学部3年 杉谷 倫生

今回の国立台湾大学スプリングスクールは、私にとって二度目の海外留学である。前回は一昨年の夏で、今回と同様に南京大学で一ヶ月ほど中国語を学ぶ短期留学であった。この台湾留学の大きな目的は、とにかくなんでもいいから現地のネイティブと中国語で話す機会を多く持つこと、そして自分の今後の進路にとって大きな意味を持つ台湾という国を自分の目で確かめることであった。

外国語で実際に話すことそのものに不慣れであった前回に比べれば、今回は台湾大学の学生サポーターの助けなどもあってより積極的に中国語を話すことができたと思う。日本人が外国語を話すときに、失敗を恐れて自分の主張ができないという話がよく聞かれるが、私の語学能力では上手く表現できても伝わってせいぜい6割だと割り切って、とにかくまず何かを喋ってみようと思い、結果的に渡台前よりも会話する力はついたと思う。一方でこれからの課題はリスニング能力である。

また今後学士研究で中国近代史を扱おうと考えている私にとって、台湾という国は現在も政治的にデリケートな問題を抱え重要な立場にある国である。率直な感想としては、大陸中国の持つ文化の重厚さには敵わないものがあるものの、人びとは非常に親切でとても暮らしやすかった。

台湾に来て驚いたのは、私が思っていたよりもずっと物価が安かったことである。酒や海外輸入品、贅沢品の価格は日本とそれほど変わらないものの、日用品や食料品がとて安くて嬉しかった。また、私が行動した台北を中心とする台湾北部について言えば、バス、タクシー、地下鉄、新幹線などあらゆる交通機関が非常に安く、日本なら5倍以上かかるのではないかとと思うほどで、観光や日常の移動手段としてたいへん使いやすかった。市内各所にはレンタル自転車のステーションがあり、30分で日本円にして約20円で利用でき、お世話になった。

授業に関しては、上級に入れられたので先生の話すスピードについていくのが大変で、いい訓練になった。一方教科書はあまり良くなく、文法の知識などはそれほどつかなかった。また大体週一回ずつ入っていた英語の講座と中国文化の授業ははっきり言って要らなかった。内容はそれほど興味深いとは感じなかったし、先生も不慣れな様子でいまち明快でなく、長時間拘束されるのであれば翌日の授業の課題・予習のために時間を貰えた方がありがたかった。語学の授業以外の付属クラスに関しては、事前に参加者に聞き取りするなどして、メニューを選べるようにしてほしい。

短期留学は休学する必要もなく、費用の面でも手が届きやすいので今後も機会があれば参加したい。今後の進路を考えても、お金が許せば次は英語圏に挑戦してみたい。

我叫杉谷倫生，是京都大學三年級的學生。主要地由於臺灣大學學生 supporters 的忘我的支援，這次留學我非常快樂了。跟他們和其他的日本同學們分手，現在我很寂寞。這次旅遊是我第一次去台灣的，但我很喜歡了臺灣不能忘這樣經驗和紀念。我非常感謝不已。

再見！